

『赤い彗星の通常の3倍速オペ体験記』

IWAKI 渋谷店 長谷川 寛

私ごとですが、この度幸運にも名医赤星先生（読み方は「あかほし」先生とのことです）のもとで白内障の手術を受けることができました。（手術当時44歳）

※「赤い彗星」は機動戦士ガンダムの登場人物「シャア」の呼び名です

「手術の体験を皆様に」とのお話を頂きましたので、この場を借りて掲載させていただきます。少しでも皆様にとってお役立て頂けましたら幸いです。読みづらい所もあるかと思いますがお付き合い下さい。

【異変からクリニック受診へ】

遡ること2020年春、仕事から帰宅した時に自宅の建物が光を纏ったようにボンヤリとした光に包まれていることに気が付きました。思えば街灯も光源周辺に霞みがかかって見えます。どなたでも目の霞みは経験があると思いますが、いつもと同じようにまばたきをしたり目を凝らしたりしても霞んだまま・・・、数週間経っても解消する日はなく続いたものの「目の疲れかなあ」と思っていました。



2021年春にオートレフで度数を測定してもらったところ信頼値5と低く出てしまい、更に夏には夜の運転時に対向車のライトの眩しさが顕著になり、すれ違いの度に前の視界が全く見えなくなっていました。

私は腎臓移植手術後から8年間ステロイドを毎日4mg服用してきたので、「ああ、遂に白内障が始まったのだな」と察しましたが、それなりにショックでした。「眼科に行くしかないかあ」と思いながらも、視力は出るのでこの足を踏んでいました。



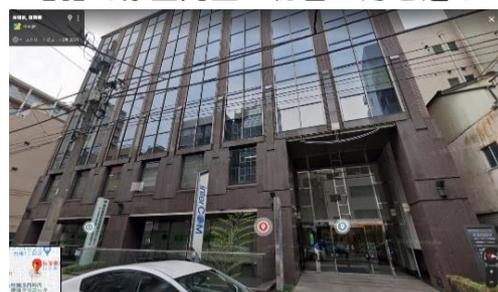
【白内障クリニックに通院開始】

9月にオートレフの機能で眼を撮影したところ、何度測っても両眼中心部に1/4を占めるほどの影がはっきりと写り、その面積の広さに愕然としました。そこで池袋東武店で赤星先生のもとでコンタクトレンズの業務をされていた田中徳之さんに相談したところ、すぐに電話で赤星先生の秘書の方を通して秋葉原白内障クリニックに予約を取って下さいました。

当時半年待ちと聞いていたのですが、『一番早くて来週でよければ』と案内して下さい、『そんなに早く!?!』と驚きました。

心の準備がまだできておりませんが、その場でクリニックに伺う決断をしました。

緊張しながら向かった初めての秋葉原白内障クリニックは・・・



道に迷いました(笑)

三井記念病院の向かいのオフィスビルの4Fにあり、よく見ると看板が出ていました。クリニックは流石白内障専門です、効率よく検査をされている様子うかがえました。スタッフの方は女性が多く、皆さんとても親切な方ばかりです。予約制をとっているので来院人数も一定で、待合室では距離を空けて座ることができます。最初の検査に呼ばれた際看護師さんがカルテを見て私がイワキの社員と分かった、「イワキさんを検査するなんて緊張します！」と仰い、こちら緊張がほぐれてお互い笑顔で検査が始まりました。



【手術までの流れ】

検査室ではオートレフ→眼圧→視力→散瞳剤→内皮細胞数→眼底と進んで、Drの診察となりました。最初に診察室へ呼ばれた際は女性のDrでしたが、私のカルテを見て急に『長谷川さんは赤星先生が直接診ますので!』と仰い一度待合室に戻され驚きました。通常は他のDrが診察して手術直近になったら赤星先生にお会いできるそうなのですが、私は初回から赤星先生の診察を受けることができました。



赤星先生の診察室はクリニック奥の木目調のモダンな一角で順番を待ち、その後応接室のように広く落ち着いた照明の部屋に呼ばれ診察を受けます。そして初めてお会いする赤星先生は、ニコニコしながら

『お世話になっていません、田中さんはお元気？』と仰いました。

私は『先生に会えなくなって寂しがついています』と申し上げました。

そして赤星先生がスリットランプで眼を覗きながら撮影した写真をディスプレイで拡大し、画像で私の白内障の状態について説明して下さいました。



両眼は共に中心部が泡のようなものが集まっているように濁っていて、**後囊下白内障**と伝えられました。

(赤星先生の著書『白内障のひみつ』にその場でサインをして私にいただきました！！)

10月、11月、12月と通ってチェックを受け、視力がまだ片眼ずつ裸眼で1.0は出るので、手術の判断時期は進行度も考慮して翌年2021年3月となりました。そして3月に再受診に伺った際、7月の手術が決まりました。(手術を勧める判断を伝えられてから半年過ぎると、初診からやり直しになるそうです)

ここで決めなければならないのが、眼内レンズの設定度数(裸眼でどこを見えるようにするか)です。秋葉原白内障クリニックでは3焦点レンズ(自由診療)も入れて頂けるのですが、私としては裸眼でもそこそこ遠くが見えて仕事でも都合がよさそうな近視傾向にしたいと考えていました。夜の運転や夜間活動も多いので、光がすっきり見える単焦点レンズが良さそうです(それ以前に多焦点レンズに手が出ませんが・・・)

そして眼内レンズを決める診察の時がきました・・・

先生：『長谷川さんの眼内レンズは光の滲みのない単焦点が良いでしょうね』(事前に趣味や生活環境をお伝え済み)

私：『仕事が近業作業なので-1.00位の軽い近視にしたいのですが・・・』

先生：『できるけれど遠視だった人は慣れない近視では生活し辛くなるし、中途半端に感じるかもしれませんね』(笑顔)

私：『そうですよね、趣味でも遠方は大事なので遠くが見えるようにお願いします！』

先生：『わかりました、あと乱視レンズを入れましょう、乱視はなくなりますよ』と仰いました。なんと**乱視レンズ**を入れて下さるとのこと！

私は右眼に-3.00近くある乱視があるので、術後が楽しみです♪



【手術当日】

2021年7月7日当日の朝は9時までには受付を済ませ、いつもと同じ検査を実施します。抗菌・散瞳の目薬をセルフで一定間隔あけ交互にさし続けながら待機します。午後になり赤星先生の診察があり、手術直前の説明がありました。その際スリットランプで眼を覗きながら、両目に乱視軸のマーキングをつけますが、少しチクッとしました。(それほど痛くはありません)その後手術準備室に呼ばれます。入口で看護師さんが不織布のカバーを頭と耳に



被せて下さってから中に入り、新幹線のグリーン車のシートのような一人用の椅子に座って点滴・点眼麻酔を受けて順番を待ちます。準備室内の中央のモニターには赤星先生考案の**フェイコ・プレチョップ法**で白内障の手術をしているリアルな映像がずっと流れていて緊張感が高まりますが、リラクゼーション的な音楽が流れています。先に手術を終えた年配の患者さんが手術室から出てきて、笑顔で『おお！見えるよー』と次々と喜んで出てくるのを見て期待が高まります。

自分の名前を呼ばれると、もう一つ奥の暗くて広い手術室へ。事前に説明はありましたが、まるで冷蔵庫の中にいるようで本当に寒いです。手術台は円を描くように3~4台設置され、外側にも何台かあったと記憶しています。(暗く散瞳剤であまりよく見えていけませんので曖昧です)

私の番になり赤星先生が『長谷川さん、すぐ終わりますからね』と優しく言葉をかけて下さり、美容パックのように目の周りだけ穴が空いた布を被せて、その穴の周りには強力な粘着シートが付いていて強制的に瞼が開かれます。その後拷問器具(笑)のような器具でも眼がしっかり開かれます。

3つの明るい光を見るよう言われますが頭の位置が低めのため、下方視となります。そのLED光は光量がかなり強く、眩しいのに瞼が開じられないので眼球が逃げてしまい『光を見ていてねー』と何度も言われました(汗)



そしてメスが入った瞬間から痛みを感じました。「あれ?白内障の手術は痛くないと聞いていたのに??」プレシヨッパーによるカット・分割、超音波による乳化(砕いて液状にすること)・吸引とそれぞれに痛みを感じ、特に乳化・吸引に強く感じました。



どうやら私には点眼麻酔がほとんど効いていないようです。(汗)緊張と痛みで硬直していく私の手を、手術の間看護師さんがずっと握って下さっていました。

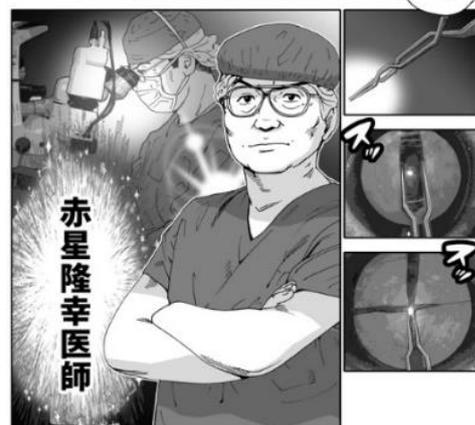
手術の目の痛みについては私が今まで度重なる体の手術等で麻酔や鎮痛剤を使用する機会が多かったため、効きづらくなっていたようです。通常は点眼麻酔で無痛だと聞いていますのでご安心ください。水晶体をカットした後は器具が挿入されてくるのが影で見えて、乳化された水晶体が吸われていくと視界が真っ白になっていきます。

LEDの光源もわからなくなり、霧の中のように全てがぼやけた光になりました。ほんの数秒でしたがこの無水晶体の時間は全く何も見え怖く感じました。そしてインジェクターから挿入された眼内レンズが展開していくと、ゆっくりと元の視界に戻っていきました。

(ほんの数秒です)

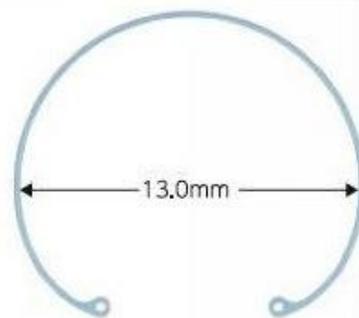
実に見事な正確さとスピードで、手が止まっている状態は皆無です。そして、

『あれ?まだ何か入れようとしている?・・・』



円状の針金のようなものを眼の中の外周に沿ってクイクイ入れていくように見えました。術後の診察で説明を受けましたが、

【 *Capsular Phymosis (tension ring)* 】(右図参照)
(水晶体囊拡張リング=目をこすってしまいチン小帯の弱い人の
眼内レンズを安定させる直径約13mmのリング)も入りました。



私はアトピー持ちのため事前に田中さんから

『おそろく入れられるだろう』と教えて頂いていたので術中に
察することが出来ましたが、実に見事な精密作業です！しかも速い！！

(衛生面だけでなくチン小帯が緩んでしまうので、皆様も日頃から眼はこすらないようにしましょう！)

傷口は通常自然治癒なのですが、私は免疫抑制剤を服用しており感染症を起こしやすいため、両眼の切り口を
「髪の毛より細い糸」なるもので縫合することになりました。

そして1ヶ月半の間、縫ったまま過ごしました。(擦れてたまに少し痒くなりました)

両眼同じ行程を経て『お疲れ様でした、終わりですよ』と赤星先生に声を掛けられホッとしたのも束の間、眼
を洗う液体(消毒?)もちよっと染みて、涙目だったため試合後のボクサーのように看護師さん二人に両脇を
固められて準備室に戻ってきて、点滴を外して顔中を消毒して下さいました。

待合室でケアにいらした看護師さんによると、手術時間はTOTAL11分(内キャプスラーテンションリング挿
入と左右の傷口縫合で通常+2分位)だったとのこと、さすが「通常の3倍(1/3)の早さ」！！これが眼の手術
の時間ですよ！本当にあっという間でした。

※「通常の3倍」も赤い彗星シャアの異名です

待合室に戻って看護師さんから明日の診察と術後の注意の説明があり、ようやく帰れます。私は少し痛みで完
全に眼が開かず涙目が続いたので、家族に手を引いてもらいながら徒歩と電車で帰りました。(因みに手術当日
は付き添い人が来ないと帰らせてもらえません)(近隣のホテルも特別価格で紹介していただく事もできます)

次の日の診察でもまだヒリヒリはしましたが、ようやく眼を開けていることができるようになりました！

赤星先生は診察で、『術後は順調で、乱視レンズもしっかりした位置に入りましたよ』と仰って下さいました。

(赤星先生の書かれた『白内障のみみつ』・『白内障手術のすべて』を読まれてからですと、通院やオペの流れ
をより知ることができ、安心オペを受けられます)

【術後の生活】

眼内レンズ安定まで安静生活ですが、出勤時も度なし保護メガネを外すことなく
装用します。手元が見えず当面はルーペグラスや既製のリーディンググラスで凌
ぎましたが、仕事で手元が見えないのは不便でした。また、重い物を持ち上げたり
力んではいけないので、筋トレや薪割りは当面お休みですㇿㇿ



【術後の受診】

術後は次の日と1週間後に検査のフルコースと赤星先生の診察があり、経過を見て頂きました。手術中の痛み
をこらえた影響で一時的に眼圧が上昇したそうで、カルテオロール(降圧剤点眼液)が処方されましたがその
他は良好のようでした。

令和4年5月17日

その後秋葉原白内障クリニックは2ヵ月以内に一度受診し、並行して赤星先生から直接紹介頂いた道玄坂加藤眼科にも月1回の通院を開始しました。最後の検査・診察の後で抜糸をして、秋葉原白内障クリニックの通院は2021年9月1日に終了となりました。

抜糸は直前に点眼麻酔を受け、赤星先生がスリットランプを覗きながら刃のついたフックなのででしょうか、直に引っかけて切り引っこ抜く感じで完了です。(糸を抜くとき少しくすぐったい感覚が)

これ以降は引き続き加藤眼科で、半年間月1回の経過診察が続くことになりました。

【術前の度数】(1.0とはいえハロ・グレアで光が酷く霞みます)

R 1.0 × S+1.25 C-2.75 AX175 ADD+2.00

L 1.0 × S+0.25 C-0.50 AX170 ADD+2.00

↓

【術後0~2か月の度数】

R 1.2-× S+0.75 C-1.25 AX135 ADD+2.75

L 1.2 × S+0.50 C-0.75 AX75 ADD+2.75

↓

【術後安定度数】(ハロ・グレアも解消、乱視もなくなってとても快適)

R 1.2 × S±0.00 C-0.50 AX150 ADD+2.75

L 1.2 × S+0.12 C-0.50 AX80 ADD+2.75



秋葉原白内障クリニックの看護師さんはご年配の患者さんが多い中で、どの方にもとても丁寧に優しく説明をされていて、素晴らしいです。また、看護師さんが常に術後のメガネの説明時にパンフレットを手渡し、信頼できる眼鏡店としてイワキを勧めて下さっている(かなり徹底して紹介して下さいました)姿を見て、私も体験を活かして白内障の症状でお困りのお客様を秋葉原白内障クリニックに紹介していきたいと思いました。

【術後のあれこれ】

私の眼に挿入されたのは保険適用の乱視付き単焦点眼内レンズなのですが、乱視が激減したことにより特に外出時は裸眼も使えて快適になりました。乱視レンズは原価が高く技術も必要なため眼科では敬遠されがちと聞きましたが、赤星先生の下では乱視付でも球面と同じ価格で適切に処置してもらえます。

(とても貴重なことです！)

術後に気になったのは、一定の条件下で視界に光の幕のようなものが出ます。眼内レンズ外側から光が入った時に、光源の角度によって(リムレスメガネのように)生じるものだと思います。

日中には全く問題は無いのですが、周りが暗いときに運転で対向車のすれ違い、照明などの光源通過時やルームランプなどの指向性のないLEDで生じました。今ではほぼ気にならなくなりました。

もちろん術前白内障でストレスだった光源のハレーション・グレアもほとんど解消し、夜の運転のストレスは完全に解消しました。

あと、**キャプスラーテンションリング**が入った後は、強く眼をこすったり押したりしてしまうと場合によっては痛いです(気を付けましょう！)

【調節力を失って】

以前はまだ裸眼でも何とかスマホまで見えてましたが、今はアプリで職場のシフト確認や就寝時のアラーム設定、起床時の時刻などがメガネなしでは見えなくて、ベッドまでメガネを持ち歩くようになりました。術前は中近メガネを（仕事用に強め）で ADD+2.00 を装用していましたが、当然ですが現在は+2.50 以上でないとなんか辛くなりました。そして、より中近メガネの快適性と近々メガネの必要性を実感しました。累進レンズの性能差や歪みの分布、高加入での視界や使い勝手、加入度数、FP、傾斜角による見え方の影響もより実体感できるようになったので、仕事の度数調整やフレームフィッティングにも経験が役立っています。

【その後の生活】

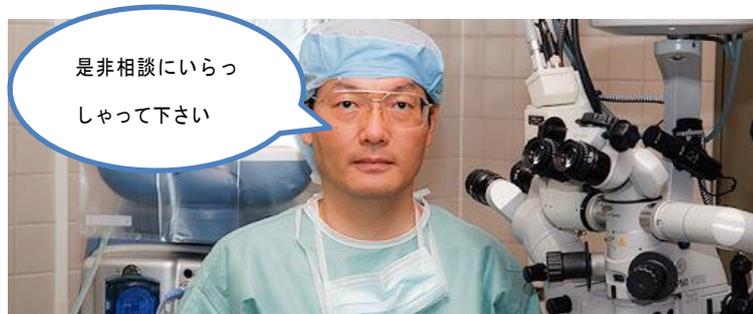
2022年1月をもって加藤眼科での術後検診も終了し、今は完全に元の生活に戻りました。普段の生活では中間から近くばかりを見るため裸眼はあまり使えませんが、趣味では長距離運転になるダム巡りやキャンプ、ジムカーナも快適に楽しめています。乱視の激減でストレスも激減です！私のケースでは他の方と違うところもあると思いますが、概ねイメージ頂けましたでしょうか。



【オペを経験して】

白内障の手術は多少通院期間が必要になりますが、短時間にもかかわらず高精度の手術で視界が回復すること、眼内レンズ寿命が50年位もつということからも、個人的には**白内障手術は眩しさや視力低下を我慢して先延ばしするのは勿体ない**と感じました。

秋葉原白内障クリニックは場所柄遠方になる方もいらっしゃると思いますが、白内障や眼の手術という不安を抱える私たちにとって本当に信頼して手術を受けられる所です。もしも皆様のご家族、身近の方に白内障でお悩みの方がいらっしゃるならこの記事の内容を伝えて頂き、少しでも不安を和らげて是非、赤星先生の超手術で**自分の希望する距離が裸眼で見えるようになり、綺麗な視界**を取り戻して頂きたいです。私はオペを受けられ素晴らしい眼にして頂き、本当に感謝しております。私の体験が少しでもこの記事を読まれているご自身や身近な方のお役に立てたら幸いです。



【最後に】

赤星先生の白内障の手術を受けられ、眩しさだけでなく今まで眼精疲労に悩んでいたため原因となる乱視と遠視、大きい左右度数差もなくして下さい、度数によるストレスも無くなりました。赤星先生をはじめ秋葉原白内障クリニックのスタッフの皆様、本当にありがとうございました。また、赤星先生にオペを受けられるご縁を繋いで下さった方々にも、この場を借りてお礼を申し上げます。



「赤星先生のフェイコ・プレチョップ法オペは、安心して最速の神業でした！」

最後までお読み下さり、ありがとうございます。